月刊
新翔タイムズ
第45号
新翔タイムズ編集室
発行・熊野新聞社

4月9日
第6回入学式

157名が新翔生の仲間入り

竹村校長「目的意識を持ち生活を」と式辞

9日、平成24年度入学式が行われ、157名（男子70名・女子87名）が新翔生の仲間入りをした。

鈴木一也君が宣誓文を読み上げる

国歌斉唱、入学生呼名に続き、竹村校長が「早く学校生活になじみ、物事に積極的に、全力で取り組み、自己の可能性を広げてほしい」と述べ、「今を大切に、今日という日を大切にしてほしい。目的意識を持って生活してほしい。仲間・クラスメートを思いやった言動をとってほしい」と3つのことを新入生にお願いした。

式辞を述べる竹村貢校長

続いて山中規義育友会会長より「高校生は無限の可能性を持っている。与えられたものでなく、自分で考え、自分でどう取り組むかが大切だ。共に学び、共に語らい、共に涙する真の友達を見つけ、3年後には大きく成長して卒業してください」と祝辞をいただいた。

入学生代表宣誓では、新入生を代表して鈴木一也君が「総合学科では数多い選択肢の中から、自分の興味関心のあることを選び、将来のために一生懸命勉強したいと思います。クラブ活動では技術を高めるとともに、仲間意識を強めつつ成長していきたいと思います。新翔高等学校の生徒としての誇りを持ち、勉強に、クラブ活動に精一杯努力することを誓います」と堂々と誓った。

緊張の対面式

9日に入学式を終えた157名の1年生が2・3年の先輩と一堂に会する対面式が10日に行われた。新入生代表・南さつきさんから「不安になることも失敗することもあるかもしれないが、勉強とクラブの両立を目指し、楽しく充実した学校生活を送りたい」とのあいさつに対し、在校生代表で生徒会長の前田健人君から「将来何をしたいのか目標を持つことで、今何をすべきかがわかる。相手を敬い、大事にして楽しく有意義な学校生活を送りましょう」と先輩からのアドバイスがあった。

やや緊張気味の新入生だったが、先輩の暖かい言葉にうなずいていた。

一日を心地よくスタート

登下校時、さわやか朝の声かけ運動

4月登下校指導

4月10日（火）から12日（木）まで、今年度1回目の登下校指導・朝の声かけ運動を実施しました。あいさつを交わすことによって一日を心地よく始めること、交通安全を意識し、ルールやマナーを守る姿勢を身につけること、高校生らしい服装・頭髪の徹底が主な目的です。

期間中は、教師が校門や学校前交差点、佐野駅など4カ所に分かれて、登下校中の生徒達とあいさつを交わしたり、マナーや服装について指導しました。

新しい制服に身を包んだ新入生が少し緊張した表情で登校する様子や和やかに友人と話しながら登校する上級生達の姿が見られ、早く学校に慣れ、友人を増やし、一人ひとりの個性を発揮しながら、学業やスポーツに励み、それぞれの能力を高めてほしいと願っています。

■服装・頭髪の指導理由

ここで、服装・頭髪について、本校が力を入れて指導する理由を述べさせていただきます。生徒達にも話しましたが、理由は主に三つあります。

一つ目は、「高校生らしい生活を過ごすため」です。高校生らしい生活とは、学業やスポーツに熱心に取り組み、知識や技術はもちろん、将来に必要な物事の考え方や強い体力を身につけること、部活動や学校行事等を通じて「目標に向かい努力を続けられる姿勢」や社会性を養うこと等が挙げられます。外見に気をとられ過ぎることなく、内面を磨いて欲しいと考えています。心の乱れは服装の乱れからとよく言われますが、高校生らしい服装で、高校生らしい生活を過ごしてもらいたいと考えています。

二つ目は、「信頼される人間になるため」です。人は一人では生きていけません。学校や職場、地域社会で生活するためには、他者に信頼されることが大切です。ルールやマナーを守ることはその第一歩だと考えています。

三つ目は「自分が所属する集団や友人を大切にする姿勢を身につけるため」です。茶髪や化粧、乱れた服装は他人に迷惑をかけていない、自分だけの問題であると考えるのは間違いです。服装や頭髪の乱れた生徒がいたとします。それを見た人の殆どは、個人を指摘するのではなく、学校を非難します。学校に信頼がなくなれば、就職の求人や進学の指定校推薦等がこなくなります。そうなれば、頑張っている友人や多くの仲間に迷惑をかけることになるのです。

生徒達が、充実した高校生活を過ごし、自己実現を達成することができるよう、教職員一同、精一杯努力します。保護者や地域のみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

さあ、新学期!!

始業式・新任式

始業式が6日に行われ、竹村校長より「3年生は自分の将来を決める年、全力を挙げて仕上げをしてほしい。2年生は心を引き締めて1年を送ってほしい」との訓示があった。その後、本年度着任した先生方を竹村校長が紹介し、各先生方より自己紹介や抱負が語られた。

新着任の先生は次の通り

愛須　貴志	（教頭）		
太田　泉	（社会）	堀木　雅之	（社会）
西村　匡	（理科）	塩路　友理	（体育）
岩倉　明徳	（商業）	別所　宏美	（商業）
田尻　智子	（養護）	岡本　憲治	（数学）
弓場　達也	（商業）	楠本　珠美	（事務）

クラブ紹介

書道部

書道部は部員10名で内2名が男子生徒です。毎週月曜と木曜の2回の活動です。顧問は和田眞先生で、とてもユーモアたっぷりで楽しい先生です。筆を持つ時間よりもおしゃべりの方が多く、放課後のひとときがとても楽しいです。でも作品づくりが本格的になる時期になると、書道教室が一変し、一生懸命練習に没頭してしまうという〝切り換え〟を教えてくれる先生です。

私たちの中には、小さい頃から書道塾に通っている生徒もいますが、ほとんどが字を書くのが好きな初心者です。書き終えたあと、互評会を開き上達を競っています。

活動の中心は、文化祭、県総合文化祭、各種競書コンクール、新宮市展等への出品制作です。以前は地元金融機関ロビーや佐野駅に展示もしました。例年11月3日の文化の日に、「佐藤春夫筆塚供養式典」に書道部全員参列します。

また、部員にとって文部科学省後援硬筆書写検定にもたくさん合格し、希望進路実現に向けて資格が取れるのもとても有利です。これからも、地元に発表できる機会をもっと増やしていきたいと思っています。

◆先生の紹介◆

校長　竹村　貢先生

この度の人事異動で新翔高校の校長を拝命いたしました竹村です。よろしくお願いします。新年度が既に始まっていますが、保護者の皆様や地域の方々と連携、協力して学校教育、進路指導、クラブ活動の活性化、生徒育成等に教職員と一丸となって取り組んでいく所存です。ご協力の程よろしくお願いします。

本校では、「観光」、「福祉」等の授業を実施していますが、地域の方々の力強いご協力をいただいています。また、「インターンシップ」では多くの会社、公的機関等からのご協力をいただき、大きな成果をあげることができています。心からお礼申し上げます。さて、私は、25、26年前の新宮商業高校時代に本校で2年間勤務したことがあり、本校での勤務年数は今年度で6年目となります。当時勤務されていた先生も何人かおられ、心強く思っています。

さて、始業式でも話したのですが、本校は気持ちの優しい生徒の多い学校です。25年前に担任した卒業生とは今でも連絡を取り合い、昨年はクラス会に招待していただき、楽しいひと時を過ごしました。全員が立派に成長し、地域の有為な人材として活躍していることを誇りに思っています。

ご存知のように、本校を卒業した多くの方々が、県内・県外、また新宮市・東牟婁を含む地元でリーダーとして大きく活躍・貢献されています。そのようなすばらしい先輩のいる在校生のみなさんには、新翔生としての誇りと自覚を持って生徒としての本分を全うしてもらいたいと思います。

学習に、クラブ活動に、生徒会活動に、全力で取り組んでほしいと思います。その際、分からないことがあれば、先生方に質問してください。本校の先生方は生徒一人ひとりのために、という強い思いをもって生徒に関わっています。どの先生も熱い気持ちを持って生徒に関わっています。今年度、そのような先生方と共に生徒に関わっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

新翔生としての心構え

3日間の新入生研修

1学年を対象にした新入生研修が16日から18日までの3日間、午後の時間帯を使って行われた。

初日の5限目は、学年主任より研修の心構えや内容についての説明を受けた。その後、教務部長より総合学科における、履修や修得、また授業を受けるにあたっての心構えなどの説明を受けた。さらに、校歌指導が行われ、担当教員が校歌を斉唱し、そのあと全体での校歌練習を行った。6限目は、「新翔高校に入学して」の題で作文に取り組んだ。

2日目の5限目は、校歌斉唱から始まり、進路指導部長より進路に関わるスケジュールや取り組み方の説明を受けた。また、5教科の担当者より学習の仕方についての説明を受けた。6限目は、生徒指導部長より学校生活全般、校則に関する注意点の指導を受けた。その後、あいさつやマナーについて担当者が実演し説明した。

3日目は、制服製造元である瀧本株式会社様より「制服身だしなみセミナー」というタイトルで、制服の着こなしはもちろんのこと、制服の手入れ、身だしなみ全般も含めた指導を受けた。6限目は、体育館において、ボールを使ってのリレーや大縄跳びに取り組み、クラスの親睦を図った。

全日程とも生徒たちは、落ち着いた姿勢、態度で取り組むことができた。この研修をきっかけに、今後更に仲間との友情を深め、勉学やクラブ活動に励んで、充実した学校生活を送ってほしいと願っている。